

2019年度 社会福祉法人 ル・プリ 事業方針

【法人本部】

新法人となって3年目を迎えるにあたり、改めて法人本部の役割が何かを考えたとき、それは、3つの事業本部の各事業が支障なく実施されていくようサポートをすることにあると考えます。具体的には、しっかりとした経営基盤の確立と従事する人材の確保・育成という点に集約されると思います。また、それらを基礎として、中期的な運営計画をつくり一定の見通しを持った運営方針を示していくことも同様に重要な役割であると考えます。これまでの2年間では、合併に伴う法人事務作業のほか改正社会福祉法への対応として会計監査人の設置など、法人組織の骨格作りに力を入れざるを得ない状況となっていたため、そうした点に十分力を注ぎきれなかったという認識にたち、今年度の取組みを考えていく必要があります。法人名である、《ル・プリ》LEPLIは、フランス語で、襷(ひだ)を意味しており、そのイメージは、しわとしわが折り畳まれて、どこが内か、どこが外か、固定した境界【壁】を設けるのではないということです。私たちの仕事は、たくさんの要素が折り重なって現れるところにあり、これは向こう側のこと、これだけは自分がやることという感じではなく、この、内でもあれば外でもあるという、折れまがったところに立って、課題に向かっていき、その解決に当たっていくということが法人の理念であると言ってきました。

3年目を迎える今年度は、そうした理念の下で行われる各事業の活動を支える事務部門の所管の業務について、効率的な執行となるよう検討を行い、順次着手可能なものについて実行していくこととします。経理部門、庶務労務部門ともに、組織が大きくなっていく中において、その執行については効率的な処理の取り組みが必要となっています。ICTの積極的な導入、外部委託化の可否など、限られた人員のなかで効果的な執行体制を確立していく取組みを継続的に行なっていきます。

また、各事業における支援部門では、近年必要な人材の確保が困難な状況にあり、人材の確保を如何にすすめていくのかということが大きな課題となってきています。特に保育部門、障碍部門では、危機的とも言える状況にあります。こうした人材不足に対して、法人本部としてその状況を打開すべき抜本的な取り組みを打ち出していく必要があると考えています。また、人材の確保とともに人材育成の取り組みも不可欠であり、この点では、支援部門のほか事務部門を含めて「働きがい」のある職場づくりと共に、どうすれば「やりがい」の感じられる仕事となるのか、ということをしかりと示していくことが求められています。職員一人ひとりが仕事を通じて達成感を実感できるような組織マネジメントが行えるよう取り組んでまいります。

【くるみ会 事業本部】

くるみ会事業本部は、旭区金が谷の地で、今年度53年目の歴史を刻むこととなります。くるみ学園児童、くるみ学園成人、ホルツハウゼ、ポート金が谷の4施設に加えて、くるみの木、くるみの森グループ、ひかりの園、横浜光センターが今まで以上に相互連携し運営を進めていきます。

金が谷の地では、昨年度末ホルツハウゼ、くるみ学園成人利用者の日中活動の場が竣工し、私たちはこの建物を「野のゆり6次舎」と命名しました。この「野のゆり6次舎」を活動拠点として本格的な運営を開始します。そしてこの拠点を、地域と交流し、地域へ発進する場として位置付ける一方で、支援者にとっては、支援の幅を広げ、支援の質を高める実践の場として活用していきます。さらに、隣接の保育園、特別養護老人ホームの事業所との交流連携（トライアングル）関係を生み出し、相談支援事業の強化、栄養士による地域の子ども、母子等への食の支援事業も推進し、地域福祉を担う拠点としての役割を進めていきます。

一方、地域生活支援の一形態として進めてきたグループホームは、昨年度末旭区中白根町に1棟2ユニットを新規開設したことにより、くるみ会事業本部全体のグループホームは、合計20ホーム、定員102名となり、施設入所支援と地域生活支援を両輪とする盤石な支援・運営体制を今年度推進していきます。

また、ポート金が谷、杜の郷の卒園後のこどもを支援する「児童自立援助ホーム」は初秋の設置を目指し建設、運営準備を進めていきます。

そして、神奈川区所在の横浜光センター、泉区所在のひかりの園との一層綿密な連携と相互協力を推進し、事業本部としての一体化を図っていきます。

今年度は、それぞれの地域での施設行事やイベントの他、地域防災活動やお祭り等への参加、蓄積された支援スキルの地域への還元等を通してそれぞれの地で地域連携を図り地域貢献していきます。その為にも各事業所は広報誌の発行、ホームページの更新等、積極的に情報発信を行い情報開示に努めます。

【くるみ学園・ホルツハウゼ】

相談部門	地域福祉の展開を念頭にした事業本部の拠点、近隣地域の拠点になるためにコーディネータ力を高めていきます。個々の利用者ニーズを的確に捉え、様々なサービスの選択肢を提案し、基幹相談、自立支援協議会などとも情報共有に努めていきます。その中で新たな計画相談の実施、継続利用者のモニタリング報告など、障碍福祉のサービス利用に支障がないよう取り組んでいきます。
支援部門	入所児童の支援においては、引き続き心理士および外部からの講師を招き、適切なアセスメントを行い、利用者の特性に合わせたユニットを組み、それぞれに応じた支援プログラムを策定し、実施します。また在宅の児童への支援においては、児童を取り巻く現状や課題について、関連機関とも調整すると共に、同じ法人内の児童養護施設、知的障碍児入所施設とも密に連携し、短期入所、緊急一時保護の役割を担い、子どもたちの安全と保護者の安心の場として機能を充実させます。 成人利用者の支援については、新しい作業場を拠点に、より地域とのつながりを重視し、施設機能を展開していきます。具体的には、生産活動や販売活動を充実させ、地域の障碍のある方の通所利用希望を増やしていきます。また児童期から成人期としてのライフステージの視点で、地域アセ

	<p>メントシートなどを活用し、児童期から成人期の移行における地域の課題や本人の課題を共有し、多様な住まいの在り方（短期入所を含む）、日中活動の場を確立していきます。</p> <p>健康管理面では、栄養士と連携し、児童から成人の利用者の幅広いニーズにこたえるべく、嗜好調査を行いながら、栄養ケアマネジメントを継続していきます。看護部門では、利用者の状態を適切に把握や観察し、定期的な通院や日頃のバイタルサインを見逃さず、早期での病状発見を心がけます。そして日々の観察データを整理し、かかりつけの主治医や近隣の医療機関とも密に相談できる体制も整えていきます。引き続き、年2回の健康診断を活用し、利用者の年齢や状態像を考慮しながら検査項目などの見直しも実施していきます。</p> <p>職員に対しては、日々の健康管理、体調面にも留意し、定期的な職員面談、産業医による健康相談などにもつなげます。また働く職場環境にも配慮し、個々におけるキャリア支援を高めるために研修や人事交流も行っています。更に、マンパワーだけに頼るだけでなく、業務全体の効率化、仕事のシステム化を目指します。</p>
--	--

【くるみの森・くるみの木】

支援部門	<p>くるみの森では、各利用者の作業適性に応じた作業の提供を行うとともに作業工程を見直し、製造量を増やしていきます。また、販売先の拡充、新商品の開発、商品の品質向上を図り、利用者の更なる工賃増加を目指します。くるみの木では、改装した喫茶店舗の来店人数増加を目指します。そのため、魅力ある新商品の販売、喫茶メニューの充実、既存商品の品質向上を行っていきます。</p> <p>両施設において、引き続き地域との関係に留意しながら事業を行うと共に、各学校からの学生の実習を受け入れ、地域のニーズに応じていきます。また、各家庭及びグループホームとの連携を強化し、利用者の方々が安心して生活を送ることができるよう支援の充実を図ります。</p>
------	---

【くるみホーム】

支援部門	<p>平成31年3月に旭区中白根で第11、第12くるみホームの運営を開始しました。既存のグループホームから引っ越しをされた方、新しくグループホームを利用される方双方に混乱が生じないように、きめ細やかな対応を行っていきます。</p> <p>一方、各ホームとの連携や協力については、ホルツハウゼをバックアップ施設と変更し、今まで以上に連携の強化を図っていきます。そして利用者一人ひとりの、日常生活や余暇活動のニーズを把握し、支援や活動に反映させながら、より充実した地域生活を営むことができるよう支援をしていきます。</p> <p>また、高齢期を迎え一層、介助を要する方には、家族、医療機関等とも相談しながらのQOLの維持に努めていきます。</p> <p>休日の余暇については、前年度に引き続きアルバイトの導入やガイドヘルプ事業を活用し利用者個々のニーズに応じていきます。旅行等行事の企画に</p>
------	--

	<p>については、職員と利用者で立案し、関係の深化を図ります。</p> <p>日中活動との連携については、就労先や活動先との連絡、協働を進め、やりがいがあり、安心して働くことができるよう支援を行っていきます。</p>
--	--

【ポート金が谷】

支援部門	<p>子どもの最善の利益を主として、子どもが安心を感じられる生活が送れるようにしていきます。大人との関係性の心地よさを感じながら、他者から愛され大切にされているという実感を得られるよう支援をしていくとともに、他者を思いやる気持ちを育てていきます。また施設内外での様々な経験を積み体験することで自己肯定感を高めていけるようにします。</p> <p>ハード面では平成30年度に全室個室化したことで、プライバシーの確保による更なる配慮を払うとともに、子ども自身も他者のプライバシーを尊重できるよう支援していきます。</p> <p>自立支援計画については、子どもの意見に耳を傾けたうえで、子どもが自身の将来について夢や希望を持ち、且つ将来の生活についてイメージが持てるように策定し、子どもの夢や希望の実現に向けてのアドバイスやその方向性を探っていきます。また、高齢児や卒園が近い子どもに対しては、進学もしくは就労についての進路を検討し、卒園後の生活について具体化していきます。</p> <p>地域においては、子育て短期支援事業であるショートステイやトワイライト、休日預かり事業を継続して行っていくとともに、地域小規模児童養護施設の調査及び児童自立援助ホームの開設と適切な運営を心掛けていきます。職員においては、地域住民や教育機関、行政機関、医療機関などの専門機関との連携を図り、子どもが地域の中で育まれるように努力するとともに、そのためのスキル向上を目指し、内部及び外部の研修を充実させ、児童福祉の動向に目を向けられるようにしていきます。</p> <p>児童養護施設の将来像として、厚生労働省（平成30年7月6日子発0706第1号厚生労働省子ども家庭局長通知）より「都道府県社会的養育推進計画」の策定が示されました。今後の児童養護施設は「小規模かつ地域分散化、高機能化及び多機能化・機能転換」に向けた計画を策定し10年程度で実現することを念頭に置くこととされています。国や横浜市の今後の動きに着目しながら、養護施設の将来の機能やあり方について横浜市の協力の元、検討していきます。</p>
------	---

【ひかりの園・ひかりホーム】

泉区緑園で運営しています。事業本部と連携し、円滑な業務に取り組んでまいります。ひかりホームのバックアップ施設としての業務も行っていきます。利用者が安心して活動に取り組めるよう快適な環境を提供します。経年劣化による大規模な修繕については計画的に取り組んでまいります。

地域との交流を深めるため、「夏まつり」の開催や地域の学校との交流、イベントへの参加などにも積極的に取り組んでいきます。利用者の健康に配慮した楽しく季節感のある食事の提供に努めます。

支援部門	<p>利用者の要望に基づいた支援計画により支援をおこないます。支援の結果は中間報告、年度末まとめとして保護者や利用者の方々にお伝えし、個別面談を行い次年度の支援へと繋げていきます。</p> <p>利用者の安定した生活を支えるため、行政や関係する他の事業所と連携協力して支援を行います。作業活動は、利用者一人ひとりの能力を活かし達成感を感じられるプログラムを提供します。作業製品はイベントやバザーで販売する他、個別の注文も積極的に受けていきます。</p> <p>ひかりホームのバックアップ施設としてグループホームと連携し利用者が安心して生活できるよう支援します。旅行や季節行事などを行い、利用者が様々な体験をする機会を提供します。</p>
グループホーム部門	<p>昨年3月開所した緑園ホームを含め22名の方が入居しています。健康管理や生活環境の改善など安心して生活できるよう支援してまいります。ガイドヘルパーの利用やイベントの企画などにより余暇活動の充実に努めます。ご家族や日中活動施設と連携し安心安全な生活を送れるよう支援します。</p>

【横浜光センター・みなと】

横浜光センターは東神奈川駅に隣接し、横浜市所有の建物において事業を行い、グループホームみなとのバックアップ施設としての機能も担っています。新年度は定員数を40名とし、個別支援計画に基づき総合的な利用者支援を担いながら、計画に沿った支援ができていくか点検と確認を行っていきます。主に視覚に障害のある利用者が中心であることから、働きやすい環境作りを心がけ、自主製品の販路拡大や、点字作業の新規業務を拡大していきます。点字作業の将来的な方向性を見出し、それに見合う体制の整備を行っていきます。職員研修については、本部とも相談しながら計画的な実施を行い、職員のスキルアップをめざします。

支援部門	<p>目標工賃を設定し、これに近づけるよう努力していきます。下請け作業の相手先企業開拓、食品部門における新商品の開発、新規販路拡大を進め、同時に商品の質を向上させます。また作業だけではなく、バザーや外出行事などで積極的に社会参加を行い、様々な経験を積むことで豊かな生活を送る事ができるよう支援を行っていきます。</p> <p>意向調査を行い、利用者の思いを大切にしながら支援を行います。</p>
グループホーム部門	<p>男性ホームと女性ホームとの一体的な支援を継続します。具体的には利用者の合同行事や外出、職員の合同ミーティングなどを行っていきます。個別の生活支援では部屋の掃除・洗濯や入浴など、入居者の衛生面にも配慮した対応を行い、また家族や地域関係機関とも連携しながらより充実した支援を行っていきます。</p>

【試行会 事業本部】

横浜市北部に位置する「試行会事業本部」は、緑区、青葉区、都筑区を中心に障害のある方や高齢者及びその家族の支援のほか、泉区での障害児支援施設、鶴見区での保育園の運営を行います。また、試行会は発足の時から保護者の願いに思いを寄せ、同時にハンデのある当事者に親身になって寄り添い、支えることを、事業を行なう上の指針として掲げてきました。これまでのこうした蓄積を事業本部も引継ぎ、安定した質の高い支援を展開していきます。

2019年度は、財政基盤をさらに安定的なものにし、利用者の活動を充実させ、利用者の方々や家族の方々の信頼を確かなものにします。そしてこれまで以上に、職員研修の内容を充実させ、支援の質を向上させます。

【ぼらいと・えき】

支援部門	ぼらいと・えきは、子どもたちが生活や活動を通して「安心」と「信頼」を学ぶ場としてあるよう支援を進めます。また、成人部門にあっては、児童の移行先の生活モデルとなるよう、GHでの生活また日中活動を通じた支援を進めていきます。あわせて、職員の定着支援の取り組みを行い、新規グループホーム開所にむけた準備を行います。
------	--

【青葉メゾン（ダ・カーポ、ブリランテ）・ワークステーション】

相談部門	計画相談の件数の増加に対応するため、スケジュール管理を徹底し、サービス利用に支障がないようすすめます。二次相談については、行政や医療機関、サービス事業所等と打ち合わせを綿密に行い、地域の課題を顔の見える関係性でつなぎ、ネットワークを構築していきます。
支援部門	利用者の年齢層が10代から70代までと広がりを見せる中、誰でも安心して日常生活を営み、心身とも健康的な生活ができるようプログラムを構築します。作業では、カフェ ダ・カーポが地域に馴染んでおり、ランチメニューの充実等、様々なご要望も頂戴しています。ご期待に添えるよう励みます。また、プリントサプレやおかきは、一般からの注文が増え、忙しい中にも達成感を見出しながら取り組んでまいります。農作物は季節の移ろいを五感で味わいながら、心豊かに活動に励んでいきます。 奈良障害者ショートステイセンターでは、施設が地域生活を継続する上では必要不可欠な福祉資源であることを広く知っていただき、公平にご利用できるよう調整していきます。 障害者自立生活アシスタント事業と並行する形で、新たに自立生活援助事業を開始します。ご利用になる方が混乱のないよう丁寧な説明に努めていきます。

【十日市場ワークステーション・あおばのギャラリー】

支援部門	2015年10月に運営開始をした十日市場ワークステーションは、青葉メゾン利用者のほか、外部からの新規通所利用者の受け入れ先としての役割を担っています。2019年度についても、特別支援学校卒業者等の新たな利用者を受け入れ、活動を充実させます。また、併設する「あおばのギャラ
------	---

	リー」は、障害児・者の芸術文化活動支援の横浜北部地域における中核的役割を果たすべく、多彩な企画を準備して、運営の充実をはかります。今年度も近隣の施設と連携し、絵画展の開催や講師の派遣を行い、文化活動の充実を図ります。
--	--

【障害者グループホーム】

支援部門	青葉メゾン、ワーク中川、ぼらいと・えきが現在17ホーム、定員82名で運営しています。非常時に備えて各ホーム、バックアップ施設、日中サービス事業所がより一層丁寧に連絡調整し合いながら、入居者の地域生活を支えています。
------	---

【すてっぷ・あおぞら】

支援部門	「あおぞら」「すてっぷ」では、地域で暮らす障害のある方が、安心・安定した生活ができるよう、地域活動ホームが持つ日中活動事業、生活支援事業、基幹相談支援センターの機能を生かし、より質の高いサービスを提供すると共に地域との連携を強固にしてサポートしていきます。その為にも研修や検証を通して職員の知識・技術の向上を目指します。また地域生支援活拠点の役割が加わり、基幹相談支援センターを軸に自立支援協議会や地域資源と連携し地域全体が拠点機能となるよう地域づくりに取り組みます。青葉区障害者後見の支援室ほっぷでは、あんしんサポーターとともに、地域の利用者に対する見守りを基幹相談支援センターと協力して行います。
------	--

【ワーク中川】

支援部門	<p>「ワーク中川」および「しゅしゅ・あゆみが丘店」では新年度にあたり、これまで実施していた就労継続支援B型サービスを廃止し、日中活動の全定員を生活介護サービスに移行します。これにより、運営を安定化させ、利用者の生活・作業支援、余暇活動をさらに充実させます。</p> <p>加えて昨年度、新規利用希望者が激増して受入れ可能枠を超えた現状（定員の空きなし）をふまえ、今後数年間の中で、新たな作業場の創設を検討します。</p> <p>また、2019年3月に運営開始したグループホーム「ソル中川」「ソル中川II」においては夜勤体制を確保し、利用者への手厚い支援と、職員にとって働きやすい職場の両立を図ります。</p>
------	---

【奈良地域ケアプラザ、青葉台地域ケアプラザ】

支援部門	<p>生活支援体制整備事業によりコーディネータが配置され3年が経過いたしました。介護保険の利用を抑制し、在宅での生活や家での看取りを奨励する広報役として地域に様々な仕掛けづくりが期待されています。ケアプラザの他の職種（主任ケアマネジャー、社会福祉士、保健師、地域交流コーディネータ）の支えを得ながら地域包括ケアシステム作りに努めてまいります。</p> <p>第3期地域福祉保健計画も折り返しを迎え、第4期地域福祉保健計画を視野に入れた動きが求められ始めています。地域に寄り添うケアプラザとして、</p>
------	---

	<p>地域の皆さんが考える望ましいまちの在り方を実現していただくための下支えの役割に徹し、地域の自主性を重んじる姿勢を取りたいと思います。</p> <p>(1) デイサービス事業</p> <p>超高齢期にある利用者への健康面への配慮及び比較的若い利用者の楽しみに対する配慮を大切に、明るい支援に努めます。利用者の方々の明日の元気を作り出せるよう、“笑顔”と“元気”を合言葉に支援してまいります。運営について検討する年であると考えています。</p> <p>(2) 居宅介護支援事業</p> <p>利用者の心身の状況等に応じ、自立した生活に向け可能な限り住み慣れた地域、今住んでいる自宅で生活を続けられるよう支援します。事業者間の連携を密にし、利用者を支えるネットワークの構築に向け継続して努力して参ります。不安なく安心して生活できるような支援体制をつくと共に、経営面にも力を注いでまいります。</p> <p>(3) 地域包括支援センター事業</p> <p>今ある力を維持していただくための介護予防事業を継続して実施します。知識・情報の拡散のための講座も継続してまいります。また、高齢者虐待や成年後見制度、家族間調整等、より複雑化し数が増える相談に向き合い解決に努めます。他事業所のケアマネジャーの指導や助言、医療機関など関係機関との調整を行ない、利用者の立場に立った支援の在り方を考えてまいります。介護予防サービスのケアプラン作成や効果の評価も継続して行ってまいります。</p> <p>(4) 地域活動・交流部門事業</p> <p>自主事業を行い、介護予防を意識した地域を支える担い手の拡充を目指します。また、ケアプラザ各部門やボランティア団体と連携して、多くの地域住民の参加に繋がる講座の開催・活動の場の提供を行い、様々な世代が集う場づくりを目標に、企画の充実を図ってまいります。より必要となってくる子育て支援も視野に入れ、地域の学校との連携も図ってまいります。</p>
--	---

【ビーンズ保育園】

支援部門	<p>子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、その子の要求や期待にできるだけ十分にこたえてあげられるよう、ゆったりとした安心な場所で夢中になって遊ぶことのできる環境を整えていくとともに、施設開放、育児講座、絵本の貸し出しなどを通じて地域の方々の子育て支援等のニーズにお応えできる開かれた保育所を目指します。また、子どもの人権をより守っていくためにも、関係機関との綿密な連携を図ります。</p>
------	--

【杜の会 事業本部】

杜の会事業本部は、横浜市の南西部に位置する栄区・泉区及び港南区を中心に、障害者支援事業、高齢者支援事業、児童支援事業を展開します。

誰もが住み慣れた地域でその人なりの生活ができるように人と人との関係性を豊かにし、互いに顔の見える関係を築くことに努めていきます。

また、各種事業に於いては、制度に基づく事業を行うとともに、社会情勢や地域環境、およびそこに暮らす社会的な支援が必要な人々のニーズを捉え、それに対応する柔軟な取り組みを創造することを目指します。

今年度、障害者サービス事業においては、公としての横浜市の運営費助成が3年かけて大幅に減額されることになったことを受けて、どのような運営が現在の支援を維持し、利用者にとって満足につながるか検討していきます。

【SELP・杜】

支援部門	<p>SELP・杜では、開所以来、地域住民との繋がりを大切に生産・販売活動等を行い障害の理解や売上の向上に繋げてきました。引き続き食の安全を意識し、お客様に喜んで頂けるような商品を開発・販売しながら工賃の維持を目指します。また、今年度は消費税の増税や、食品表示法の改正への対応もしていきます。</p> <p>開所後20年が過ぎ、高齢化や機能の低下が見られる利用者が増えてきました。個々に合わせた作業を見直すと共に、家族や医療機関と相談をしながら、職員も研鑽を積み重ね、利用者が安心して活動ができるよう支援の充実を図ります。</p> <p>あわせて、職員がやりがいをもって働けるよう、職員間のコミュニケーションを多くし、職員のモチベーションの維持や向上、研修の充実など人材育成の仕組みを作ります。</p>
------	---

【障害者グループホーム】

支援部門	<p>6箇所12ホームのグループホームに50名の入居者が暮らしています。入居者が安心して暮らし続けられるよう、より細やかな個別支援の実施に努めるとともに、10年先を見据え家族機能を含めた包括的な支援を実施していきます。事業所の重点取り組みとしては、「杜のさぼーと館」の1階にある日中事務所が拠点となり、各ホームへの組織的なバックアップ、相互のフォロー体制を強化するなど、「12ホーム1チームの組織づくり」を進めていきます。また、平成32年度の新ホーム設置に向けて準備を開始するとともに、組織が大きくなることを見越し、次世代の人材育成を進めていきます。</p>
------	---

【杜の地域生活支援室】

支援部門	<p>(1) ASSIST・杜 (ガイドヘルパー、ホームヘルパーの派遣)</p> <p>利用者・ご家族との信頼関係の維持・構築を大切に、余暇の充実と生活の安定という方針に沿った質の高い支援を目指します。また、業務に必要な資格要件を満たす職員・ヘルパーの確保、人材育成を継続して行い、支援の質の向上と運営面での安定・継続に繋げていきます。</p>
------	--

	<p>(2) 知的障害者自立生活アシスタント事業、自立生活援助事業 2019年度、国制度の「自立生活援助」の事業を開始します。横浜市委託事業の「障害者自立生活アシスタント事業」と共通する部分がある為、新制度の動向に留意しつつ、市の方針を確認し、必要に応じて協議していきます。そして栄区内の「自立生活援助」事業の新規利用者登録に向けて働きかけていきます。</p> <p>(3) 相談支援事業所SEL P・杜（指定特定相談支援事業） ご本人の希望を軸に、地域社会の中で自分らしく主体的に豊かな生活を送れるよう継続して取り組んでいきます。障害福祉サービスを利用されている方全員への計画相談支援実施に向けて、SEL P・杜利用者との新規契約を計画的にすすめていきます。</p>
--	--

【中野地域ケアプラザ・日下地域ケアプラザ】

<p>支援部門</p>	<p>横浜型地域包括ケアシステムでは、ケアプラザを中心に地域の特性に応じたきめ細やかな取組み、地域づくりが掲げられています。地域包括支援センターの専門職による個別支援、生活支援コーディネータを中心とした地域での社会資源の開発、地域交流コーディネータを中心とした地域づくりを深化させるとともに、医療との連携を更に深めていきます。また、地域共生社会の実現に向け住民主体の地域の助けあいの仕組み作りに取り組めます。</p> <p>(1) デイサービス事業 利用者にとってより効果的な機能訓練が行えるよう、外部専門職との連携を図り取組みを充実させます。また個別の対応も嗜好に沿う支援を心掛け、楽しく元気になる時間や空間を提供します。</p> <p>(2) 居宅介護支援事業 利用者の心身の状況などに応じ、可能な限り住み慣れた地域で生活を続けられるよう支援を行います。行政、医療をはじめとするチームケアを推進すると共に利用者を支えるネットワークの構築に努めるほか、休日や夜間帯でも不安なく安心して生活できるよう24時間の連絡体制を確保します。</p> <p>(3) 地域包括支援センター事業 地域の身近な総合相談窓口として、いつまでも住みなれた地域で生活が継続できるように、一人暮らしや高齢者世帯の方の支援や介護を中心に、虐待や成年後見制度等に関する相談を受け解決に努めます。また多様な問題に対し地域ケア会議を開催し、関係機関ともに連携・協働し解決する地域包括ケアシステムを構築します。また生活支援コーディネータと連携し、出前講座も含めて地域に元気な高齢者を増やすため介護予防事業を企画・実施します。</p> <p>(4) 地域活動・交流事業 来館者とのコミュニケーションを大切に地域の魅力と課題を把握するとともに、地域が主体的に課題の解決に向けた取組みができるよう支援していきます。地域福祉保健計画の推進についても区役所・区社協と連携しながら、事務局として住民との協議の場を継続します。また将来の福祉人材の育成も視野に入れ、地域の子どもたちが学齢期から障害や認知症等への理解を深め、地域福祉に関心を持てるよう、学校と連携し年齢に応じた内容の福祉教育を</p>
-------------	---

	行います。
--	-------

【小規模多機能事業所「晴」・らいふけあ中野】

支援部門	<p>地域密着型の介護サービスとして、2ヶ月に一度、運営推進会議を開催し、地域に開かれた事業所運営を心掛けます。また、杜の会事業本部にある中野地域ケアプラザを拠点とした事業部内の高齢者事業と連携して地域の在宅支援の質的な向上に一層取り組み、地域に小規模多機能型居宅介護事業を知っていただけるように努めます。</p> <p>らいふけあ中野については、栄区、港南区（一部）にお住まいで支援が必要な高齢者が、住み慣れた地域でその人らしく自立した在宅生活が維持・継続出来るよう、訪問介護計画書に添ってサービスを提供します。またサービスの質の維持・向上のため、職員・登録ヘルパーの研修の充実を図るとともに、ヘルパーが「やりがい」や「達成感」を感じられるような派遣調整をします。</p>
------	---

【かさまの杜保育園・杜ちゃいるど園】

支援部門	<p>子どもたちには幸せに生きてほしいという大きな願いを持ち、家庭と協力し、子どもたちがさまざまな経験ができる場をつくります。また、近隣の高齢・障碍施設、保育園、小学校、地域と交流しながら、子どもたちが人と人との関係を心地良いものと捉えられるようにしていきます。さらに、研修を計画的に行い、子どもの発達や内面について理解を深め、安心安全な環境の中で子どもたちが主体的で豊かに暮らせるように保育士の関わり・子どもをとりまく環境の改善が考えられる職員集団として質を高めます。</p>
------	---

【杜の郷（子ども家庭支援センター・寄り添い型学習等支援）】

支援部門	<p>(1) 杜の郷</p> <p>各々の問題を持った子どもたちに安心して安定した生活の場であるよう努め、その中で生活習慣を身につけ、施設退所後、地域の中で自らが暮らしていく事が出来るよう支援をしていきます。また、自治会や地区社協を始め、地域の関係機関と連携し、子どもたちの地域での生活を保障すると共に地域の相談機関として有用な施設であるよう努めます。</p> <p>また、昨年3月には杜の郷として初めて高校を卒業し、就職により退所した児童の退所後支援に取り組んでいます。今後も退所児童が増えていく事になり、社会人としてのスタートから継続までの退所後支援の充実を図ります。</p> <p>その一環として、ポート金が谷と共同で、今年度中に自立援助ホームの建設竣工を目指します。</p> <p>そして、今年度も継続して、学齢児に対して算数教室・学習ボランティアにより学ぶ意欲と学力を育てます。一方、個別支援級に在籍する子ども達も全体の30%を越えており、職員に対して、知的障碍等の理解や支援方法等の学習する機会を設けていきます。建物には劣化が生じている箇所もあり、急務である敷地内の排水処理改善等の修繕を行っていきます。</p> <p>(2) 子ども家庭支援センター</p>
------	---

身近な相談機関として、親身に相談に耳を傾け、その家庭にとって必要な支援につなぎ、支援が有効なものになる様に子どもとその家庭を支えていきます。泉区内の児童と家庭をめぐる課題を認識して、積極的に関係機関、相談支援機関との連携・協働関係の確立とネットワークづくりに努めます。また、相談支援の充実と共に、短期支援事業の体制を確立して、預かり（ショートステイ・トワイライト・休日預かり）について必要に応じた対応をしていきます。中田地区での子育ての取り組みを支持し、他の支援機関（者）とともに中田・白百合子育てネットワークへの参加を継続します。

（3）寄り添い型学習等支援事業（ふれあい塾）

区内の小学生、中学生を対象として、今年度も従来の方針を引き継ぎ、一人ひとりに寄り添うことを大切にしながらも、学習支援を軸として子どもたちに学ぶこと、学ぶことの楽しさを伝えていきます。特に中学生については全員高校への入学を目標に取り組んでいきます。また、高校受験には少なくとも数年の学習期間が必要である事、小学校から学習習慣を身に付けていく事が大切である事を関係機関等に周知し、通塾開始年齢を引き下げていく努力を引き続きしていきます。